

高 8 回 塩澤千秋

先月、寒くない冬で物足りない等と書いたのを北極の風に聞かれたので、原稿を送った直後に猛烈な寒気が北極圏から襲いかかり、氷点下 30 度近い気温が二週間ばかり居座りました。玄関をあけると物凄く寒い空気に包み込まれ、外へ出る気にもなれず、家の中に逼塞していました。エネルギーのある頃は、そんな日にはわざわざ外に出掛け、寒さを味わったり、写真を撮ったり、得意になったものでした。しかし、最近「君子危うきに近寄らず」、面倒になって安全な所から眺めているばかりです。しかし、最近暖かい冬が再びやって来ている。

カルガリーの冬の気温はこのように激しく上下しますが、そんな気温の変わり目には、霧氷が生じ、翌日は綺麗な樹氷が出来上がり銀世界が演出されます。日本では高山に行かないと見えない樹氷を、我が家のベランダから眺められるのも北国の特権のようです。運がよい日には青空をバックに樹氷を撮影できますが、そんな日は樹氷の寿命も短く、撮影チャンスが掴みにくいです。曇り空ではあまり白さが映えませんが樹氷の寿命は多少長くなるようです。この写真は 2 月 14 日の朝撮ったものです。柳のような白樺、Willow Birch や 榆、Elm を銀色に染めた樹氷は中々のものでしょう。

(February 20, 2004)



氷河をわたる風 (28) 渡り鳥—Swan



写真1. カナダ平原の雪解けの池に白鳥がやって来ました。カナダに渡ってくる鳥の中で一番優雅な姿をしています。(1999年4月20日Camoreの近く、トランス・カナダ・ハイウエー脇にて撮影)

Snow Gooseの渡りが最高潮になる五月頃、Swan、白鳥が渡ってきます。Snow Gooseのような大群ではありませんが、小さな群れを組んで優雅に渡ってきます。アルバータの平原には、春雪解け水で小さな池がいくつも出来ます。白鳥は氷の解けた、そうした池に集ってきます。北のツンドラに子育てに行く途中の休憩です。飛来するのは決まった池の様子で、毎年決まった時期に同じような数の白鳥がやって来

ます。また、近くを流れるボー川にも集ってきます。ダムがあるため流れが緩やかになっ

た川に数百羽の群をなして泳いでいます。湖の中央に氷が張っている時期は、氷の解けた岸辺近くに集っているので写真を取れる機会があります。しかし、餌付けをしていない野生の鳥ですから、警戒心が強く、写真を取れる距離まで中々近づけません。ほんの数週間滞在してから、氷河の風に乗ってロッキー山の上まで上昇し、北極圏のツンドラに優雅に飛翔してゆきます。

トリ・インフルエンザなどに罹ることなく今年も優雅に、元気に飛んでくるのを待っています。

子供の躰

日本に住む人たちからしばしば、学校での子供の躰が甘いと先生を非難する意見を聞きます。また、子供が何か事故を起こしたり、犯罪を起こしたりすると、一番に非難されるのが学校であり、必ず先生が警察になど呼び出されるのが日本の制度のようです。そして、繁華街を子供たちが不良していないかと、巡回するのも先生の仕事と聞きます。日本の先生方は本当に親切で、授業が終わっても子供の面倒を見なければいけないのは大変なことです。一体親は何をしているのでしょうか。自分の子供の躰をするのは親の責任であり、義務のような気がするのですが。



写真2. 白鳥の恋の季節は冬。渡りの時期には既にペアになっています。一度ペアになると一生離れません。二羽寄り添って水面を優雅に泳いでいました。(1999年4月20日Camoreの近く、トランス・カナダ・ハイウエー脇にて撮影)



写真3. 地面を歩く姿は誠に無様ですが、水面を泳いだり空に舞ったりする姿は大変優雅です。大型の水鳥の中で最も美しいのではないのでしょうか。これもペアの白鳥です。(1999年4月20日Camoreの近く、トランス・カナダ・ハイウエー脇にて撮影)

カナダの学校はその点ははっきりしています。子供の躰は親の分野、学校の関与する所ではありません。学校外で生徒に起こったことには一切関与しません。それどころか、昼休みは先生が休む権利があり、子供の面倒は一切見ません。昼職は家に帰るか、学校の一室を借りて父母が面倒を見ることとなります。学校内で起きた身体事故も最初に学校は一切責任を負わないという書類にサインをさせられます。親はそのために保険に入ることとなります。校外またはこのような場合に起きた事について、学校の名前や先生の責任が問われることは一切ありません。むしろ、そうした行動をした生徒をたとえ義務教育でも学校から放り出します。校内で乱暴をしたり、犯罪に関わったりすると、親が呼び出され放校を宣告されます。親は子供を連れて次に引き受けてくれる学校を探して歩かねばなりません。

子供の成績が悪ければさっさと落第させます。勉強をしないのは親と子供が悪いのであって、学校ではちゃんと教育を行っていると主張します。落とされても親も子供もあまり気にしないようです。先生は教室では大きな声を出すことはあっても体罰は加えません。手に負えなくなると校長室へ連れて行きます。そこで説教され、手のひらを物差しでひっぱたかれます。これには相当腕白な子供でもかなりのショックを受けるようです。これが三度繰り返されると放校となります。子供達はそれを知っているものですから、親に内緒にして、以後慎重に振舞うようになるようです。

こうしたことをみてもみますと、カナダのほうが躰と言うことにおいては、親に責任があることをはっきりさせ、合理的であるように思えます。躰など是一对一でやるものであって、大勢の生徒を受け持つ先生になど押し付けるものではないように考えます。

私達がカナダに来たばかりは、悪さをした子供を公衆の面前でびしゃりとお尻を打つ親をよく見かけました。我が家でも余りにひどい時には尻をひっぱたきました。しかし、最近は見かけなくなりました。子供に体罰を加えてはならない法律が出来たからです。うっかり尻を叩いて、それを報告でもされると子供を取り上げられてしまうからです。旅行者

でもカナダの法律が適用されます。アイルランドからカナダに観光旅行に来ていた一家がありました。男女二人の子供を連れての旅でした。トロントのことだったと思います。空港で男の子が一寸いたずらをしたのを咎めるために母親が小突きました。それをポリスに見られ、虐待と言うことで直ちに母親から隔離されてしまいました。アイルランドではそれ程咎められる行為ではなかったのですが、カナダであったのが不幸でした。虐待であると言うことで、母親は裁判に掛けられ、散々絞られて、やっとの思いで子供を返してもら



写真4. 畑の中で何か採め事のように。まだはっきりした絆のない若いペアのプロポーズか、恋の鞘当かもかもしれません。羽を半分広げて首を伸ばしている四羽が大きな声を出しています。(1999年4月30日Tofieldにて撮影)



写真5. 水面から飛び立った白鳥。身体が重いためでしょうか、水面を走りながら羽ばたき助走してから空中に浮かびます。これらの白鳥は純白でないですから、まだペアを組まない若鳥のようです。親に従って行動します。(1999年4月30日Tofieldにて撮影)

いました。被疑者が外国人であったため、新聞で報じられ大変な話題となりました。

子供は確りと守られています。日本では子供だけを家において一寸買い物に出掛けたりしているようですが、カナダでは違法行為となります。十二歳までの子供は、親が居ない場合、子守を付けないで置くことは許されません。十三・四歳の子供は一人で居てもよいが子守は出来ません。しかも子守は十五歳以上でなければなりません。パーティーなどで親だけ行かねばならないときは子守を雇って置いて行くことになります。

こうしたことは、外には分からないだろうと思って良い加減にすると、隣のおばあさんなどに通報されます。うっかりひっぱたくのも、どこから見られているか分かりません。行政から嚴重な警告を受けることになります。二度目には子供を取り上げられてしまいます。子供の安全は社会全体の責任であるという観点からですが、躰をしなければならぬ親にとっては、一寸困った事になりました。体罰はよくないことは分かっていますが、言葉が間に合わない場合の、親の気持ちを表わす緊急の手段である場合もあります。これからは、じっくりと言葉を尽くして、子供と付き合っていくのが良い躰ということでしょう。親も辛抱強くならねばなりません。どの道、子供は親を見習って育てゆくものですから、良い子を育てようと思ったら、親が良くなるしかないようです。どうでしょうか。



写真6. カメラマンが近づき過ぎた為でしよう、全員が警戒しています。もう一メートル近づけば飛び立つでしょう。野生の動物は人間には中々心を許しません。
(1999年4月30日Tofieldにて撮影)